

2018年第2期2課 ダニエルと終末時代 4月14日

A ごく小さなことに忠実であれ ダニエル 1章

- ❖ ダニエルは「宮廷の肉類と酒で自分を汚すまいと決心し」た。(ダニエル 1:8)彼の三人の友人もこの決心に同意した。
- ❖ 神様は彼らの忠実な決心を報い、彼らは「文書や知恵についてもすべて優れ」ていた。(ダニエル 1:17)
- ❖ 私たちは今人生の小さい戦いに忠実でなければならない。そうすれば終わりの時に忠実であることができるだろう。私たちはイエス様につながっている時にのみ、すべての状況において忠実でいることができる。

B ダニエルの謙遜 ダニエル 2章

- ❖ ダニエルは王様の夢もその解釈も知らなかった。彼は神様に謙虚さと信頼を表した。
 - ダニエルは神様に向かって祈った。彼は神様に全く信頼した。(ダニエル 2:17-18)
 - 彼は夢が示されるとすぐ神様に栄光を帰した。(ダニエル 2:19-23)
 - 彼は王さまの前でも謙虚で、神様に栄光を帰した。(ダニエル 2:27-28)
- ❖ 私たちも自分たちではなくキリストの十字架を褒め称えることによって、ダニエルが示したと同じような謙虚さと神様への信頼を示そう。

C 金の像 ダニエル 3章

- ❖ ドラの平野でひとつ確かだったことはシャドラク、メシャク、アベドネゴが神様の律法を犯そうとはしなかったことである。
- ❖ この事件は黙示録 13章における獣の像を礼拝するやうにとの命令に似ている。
- ❖ 私たちは自分の命、仕事、自由、友人などが脅かされても、私たちは聖書の教えを喜んで擁護しようとするだろうか。

D 異邦人の回心 ダニエル 4章

- ❖ 王は、聖霊によって自らの誇りが取り去られたのち、ようやく神様の力と権威を認めた。(ダニエル 4:34-37)
- ❖ ネブカドネツアルのように多くの者たちが終わりの時に神様に立ち返る。「後の雨」の時には私たちの証と聖霊の力によってかつてなかったほど多くの改心が見られる。(黙示録 18:1)

E ダニエルの忠実さ ダニエル 6章

- ❖ ダニエルは何故、死刑を避けるために隠れたところで祈ろうとせず、見えるところで祈ったのだろうか。
- ❖ 隠れたところで神様に祈っていたら、ダニエルはダレイオス王を褒め称えていただろう。
- ❖ 終わりの時には地の多くの住民が「獣」を拝むだろう。その時私たちが黙っていて、隠れたところで礼拝していたら、私たちは神様を否定することになる。
- ❖ 神様は忠実な習慣が形作られるまで、しばしの時を与えられる。そうすれば、迫害と死が来る時、神様は力を与えられる。